

## 令和7年度業務運営懇談会議事要旨

1 日 時：令和7年5月29日（木）9：30～12：00

2 場 所：独立行政法人農林水産消費安全技術センター本部7階大会議室  
（さいたま市中央区新都心2－1さいたま新都心合同庁舎検査棟）

### 3 出席者

#### ◎座長

木内 岳志 独立行政法人農林水産消費安全技術センター 理事長

#### ○外部有識者

川上 和久 麗澤大学 教授（Web 参加）

立石 亮 日本大学 生物資源科学部 アグリサイエンス学科 教授

戸部 依子 公益社団法人 日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会 会員（Web 参加）

松井 徹 京都大学 名誉教授（Web 参加）

森田 満樹 一般社団法人 Food Communication Compass 代表

森光 康次郎 お茶の水女子大学 生活科学部 食物栄養学科 教授

與語 靖洋 公益財団法人 日本植物調節剤研究協会 研究所 技術顧問

（五十音順 敬称略）

#### ○説明者等

牟田 大祐 理事

橋本 陽子 理事

池田 淳一 理事

飯村 正紀 監事

服部 夕紀 監事

須永 善行 情報システム・セキュリティ統括官

浅野 正博 有害物質等分析調査統括チーム長

田熊 秀行 企画調整部長

本澤 勝 総務部長

伊藤 亜希子 規格調査部長

松田 雄一 認定センター所長

小塚 大生 表示監視部 表示指導課長（代理出席）

古川 明 肥飼料安全検査部長

入江 真理 農薬検査部長

## 4 議事次第

- (1) 開会（理事長挨拶、出席者紹介）
- (2) 議事
  - ・令和6年度業務運営懇談会委員からのご意見への対応状況
  - ・令和6年度プロセス評価対象の取組紹介と業務実績自己評価の概要
  - ・主務省令期間（令和2年度～令和6年度）における「業務運営の効率化に関する事項」の実施状況の概要（効率化評価）
  - ・その他
- (3) 全体を通した委員との意見交換
- (4) 閉会

## 5 質疑応答

### (1) 令和6年度業務運営懇談会委員からのご意見への対応状況

質疑応答なし

### (2) 令和6年度プロセス評価対象の取組紹介と業務実績自己評価の概要

#### ① 概要

＜資料 2-3 P89 情報漏洩について＞

外部有識者

PDF ファイルのメール誤添付は起こりえる。送り先が間違った操作をして情報が漏洩することもある。メールに添付資料を直付けするのではなく、ストレージにアップロードし、受取側がダウンロードする方法も一手。

外部有識者

電車の混雑により押し出されて降車してしまい、網棚に置いていたバッグを紛失したが、その後車両内で発見されたということか。むしろ、このような事案でも、職員が自主的に報告する姿勢が見られるよう、引き続き組織として心理的安全性の維持に努めることが重要である。記載ぶりとして、「一時紛失」とすることはできないか。

#### ② 肥飼料関係業務

＜資料 2-2 No. 1 苛酷試験法の試験操作手順の普及について＞

外部有識者

苛酷試験はどのような状況の負荷を想定しているのか。

説明者

肥料の製造から生産者が使用するまでの保存等の時間の経過だけでなく、肥料製造時の造粒（加熱）による肥料への負荷を想定している。

外部有識者

新しく開発した試験法について、事業者から要望を聞くことは重要である。要望を反映させた分析法は、2025 年度以降試験法に反映されるということか。

説明者

その予定である。

|         |                                                                                                                                                                                 |
|---------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 外部有識者   | <p>&lt;資料 2-2 No. 5 大臣確認検査業務について&gt;</p> <p>レンダリング工場と配合飼料工場のそれぞれのリスクと検査内容の違いは。</p>                                                                                              |
| 説明者     | <p>レンダリング工場では、高齢牛の脳や脊髄など肉骨粉の原料に出来ない部位の混入がないかの確認であり、配合飼料工場では、牛用飼料と牛肉骨粉を混ぜる豚鳥用飼料の製造ラインが分離・管理されていることを確認している。なお、牛用配合飼料の検査をこれまでも行っているが、牛肉骨粉の混入が確認された事例はない。引き続き検査等により飼料安全を確保していく。</p> |
| 外部有識者   | <p>&lt;資料 2-2 No. 6 WOAH 業務について&gt;</p> <p>この取り組みは輸出促進に繋がるものか。</p>                                                                                                              |
| 説明者     | <p>本業務は、アジア太平洋地域を中心とした飼料安全を目的に行っているもの。飼料の対象動物は、家畜だけでなく、ペットフードの安全確保についても情報や技術を提供している。</p>                                                                                        |
| 外部有識者   | <p>&lt;資料 2-3 No. 7 調査研究業務について&gt;</p> <p>コオロギの食用利用については、SDGs のひとつとして一時注目されたが、撤退している事業者もあると聞いている。飼料の場合は、引き続き利用していくのか。また、従来の飼料と昆虫飼料では、有害物質の測定に必要な前処理が違うのでは。</p>                  |
| 説明者     | <p>水産飼料では SDGs の観点から魚粉の代替として、昆虫利用が検討されている。飼料は、植物から動物質の油まで性質の異なる原料が使用されていて、前処理が複雑なため、難易度が高いことから昆虫の対応も可能であった。</p>                                                                 |
| 外部有識者   | <p>昆虫飼料を対象とした分析法の妥当性の確認はしたのか。</p>                                                                                                                                               |
| 説明者     | <p>今回の事案について今、詳細を持ち合わせていないが、通常は、飼料中の有害物質の分析を行う際は、妥当性確認を行っている。</p>                                                                                                               |
| ③農薬関係業務 |                                                                                                                                                                                 |
| 外部有識者   | <p>&lt;資料 2-2 No. 2 ベトナム RETAQ への技術支援について&gt;</p> <p>長期的に見て大変意味のある取り組みであり、今後も特にアジア地域をリードして欲しい。お茶は、発酵の程度など加工技術が幅広いため、共通となる分析技術があると良いと考える。</p>                                    |
| 説明者     | <p>調査研究で取り組むことも検討したい。</p>                                                                                                                                                       |

|         |                                                                                                                          |
|---------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 外部有識者   | <p>&lt;資料 2-2 No. 3 農薬 GLP 講習会の開催について&gt;</p> <p>GLP を導入していない施設は、現地検査がどういうものなのか分からず、不安がある。実際の様子が分かればハードルが下がるのではないかな。</p> |
| 説明者     | <p>撮影を許可してくれる施設などを見つけて、現地検査の様子を提示できるか検討したい。</p>                                                                          |
| 外部有識者   | <p>GLP 施設での逸脱は多いのか。</p>                                                                                                  |
| 説明者     | <p>ごく一部の施設であるが定着していないと思われる場合があり、記録簿の未記載などが見受けられる。教育訓練をしているものの抜けがあると考えられるため、このような状況をカバーできるよう、教育訓練のひとつとして講習会を実施していきたい。</p> |
| 外部有識者   | <p>夏休み期間に限って、web 大学を開く事例もある。</p>                                                                                         |
| 説明者     | <p>参考としたい。</p>                                                                                                           |
| 外部有識者   | <p>&lt;資料 2-2 No. 6 農薬の分析実習について&gt;</p> <p>学会でもセミナーを開催している。役割など相談したい。</p>                                                |
| 説明者     | <p>今後も協力していきたい。</p>                                                                                                      |
| ④表示関係業務 |                                                                                                                          |
| 外部有識者   | <p>&lt;資料 2-2 No. 8 食品表示表に基づく立入検査業務について&gt;</p> <p>病気の AI 診断などが行われているが、表示の検査にも取り入れられるのではないかな。</p>                        |
| 説明者     | <p>以前アサリやシジミの画像解析を用いた検査を実施したことがあったが、十分なサンプルを確保できず解析精度が低かったため、一旦中止している状況。画像解析の技術も進歩しているので、専門研究者を紹介してもらうことを検討している。</p>     |
| 外部有識者   | <p>同じ種であっても原産地が異なるものの産地判別について、ICP を用いた分析を実施した FAMIC からの論文を読んだことがあるが、今も実施しているか。</p>                                       |
| 説明者     | <p>タマネギなどの原産地判別に現在も利用している。</p>                                                                                           |
| 外部有識者   | <p>科学的な検証と社会的な検証をセットにして、疑義を解明している。食品表示の信頼にも繋がるもので、もっとアピールして欲しい。</p>                                                      |

|           |                                                                                                      |
|-----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 外部有識者     | S 評価としても良いのではないか。市場のニーズがどのように反映されているのか気になった。                                                         |
| 外部有識者     | <p>&lt;資料 2-2 No. 9 スタートアップ企業との研究について&gt;</p> <p>最先端の遺伝子解析技術とは、次世代シーケンサーによるものなどか。</p>                |
| 説明者       | その通り。より高度なゲノム解析手法のために必要な機器と認識している。                                                                   |
| 外部有識者     | 大学では先端技術が海外に流出することを防ぐための対策を取っている。注意が必要。                                                              |
| 外部有識者     | ナノポアシーケンサーなど簡易な遺伝子解析手法もあるので、検討したらどうか。                                                                |
| 説明者       | データ情報の解析の人材育成も含めて、情報交換しながら進めていきたい。                                                                   |
| ⑤JAS 関係業務 |                                                                                                      |
| 外部有識者     | <p>&lt;資料 2-2 No. 10 JAS の制定等に係る業務について&gt;</p> <p>国際規格はないのか。</p>                                     |
| 説明者       | 国際規格としては、CODEX ガイドラインが規定されているが、各国毎に栽培作物や気候風土等の条件が異なり完全には一致しないため、国毎の交渉となる。                            |
| 外部有識者     | <p>&lt;資料 2-2 No. 11 国際規格に関する業務について&gt;</p> <p>農水省の「みどりの食料システム戦略」とも関係するのか。</p>                       |
| 説明者       | 直接ではないが、「みどりの食料システム戦略」では、2050 年までに耕地面積に占める有機農業の取組面積の割合を 25%に拡大することを目指しており、有機食品の輸出拡大が施策に貢献することが期待される。 |
| ⑥その他の業務   |                                                                                                      |
| 外部有識者     | <p>&lt;資料 2-2 No. 12 情報提供業務について&gt;</p> <p>若い層へのアプローチは良い。コメントを活かしてフィードバックすることを期待。</p>                |
| 説明者       | 今のところ X 等へのコメントは少ないが、閲覧数の多いものを参考として工夫していきたい。                                                         |

|                          |                                                                                                                                                |
|--------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 外部有識者                    | 発信する内容の検討はどのようにしているか。職員個々人が投稿して、後で非難されることは避けるべき。                                                                                               |
| 説明者                      | 広報課、企画調整部で内容を確認してから発信している。                                                                                                                     |
| 外部有識者                    | <p>&lt;資料 2-2 No. 13 自己収入の確保について&gt;</p> <p>講習会などが増えて職員の負担になっているのではないか。</p>                                                                    |
| 説明者                      | 毎年度ほぼ一定数である。作成した講習用テキストはデータベース化して、同様のテーマで使えるように整備している。                                                                                         |
| <b>（３）効率化評価</b>          |                                                                                                                                                |
| 外部有識者                    | 業務量が増加してきているが当初の計画に基づき評価するのか。                                                                                                                  |
| 説明者                      | その通り。業務量は増加しているが職員の協力を得て達成したところ。                                                                                                               |
| <b>（４）全体を通した委員との意見交換</b> |                                                                                                                                                |
| 外部有識者                    | 業務が増えている中、細かなことに取り組みながら、本来の業務をこなし社会のニーズに貢献するよう努力されている。FAMIC の業務をもっと広く知ってもらいたい。ストーリー性を持たせてトータルに見せると良いのでは。                                       |
| 説明者                      | 広報誌「大きな目小さな目」を発行するなどしているが、なかなか広く行き届かない。引き続き努力していく。                                                                                             |
| 外部有識者                    | 人材育成などは、成果となるまでに時間がかかる。業績評価は年度毎に行うものであるが、長期的に振り返って評価する方法を考える必要があるのではないか。                                                                       |
| <b>（５）閉会</b>             |                                                                                                                                                |
| 理事長                      | 心理的安全を組織で保持することは重要であるのご助言いただいた。ミスをしてしまった場合のリスクを共有・対応できる体制を維持していきたい。国際貢献や FAMIC 業務のアピールについては、特に若い人向けに上手に工夫して行っていきたい。自己収入については、今後も増やす取り組みを行っていく。 |